同ジク昭和三年三月末ニ卒業スベキ圖畫師範科生徒十八人ヲシテ実地教授法視察研究ノ爲本年度十月十九日ヨリ同二十八日迄十日間助教授一人之ヲ引率シ京都、大阪、奈良、愛知ノ二府二縣ニ出張シテ視察研究ヲ爲サシメタリ

本校ニ於テハ生徒皆通學ナルヲ以テ寄宿舍ニ關シテ申報スベキ事項ナシ

將来施設上重要ト認ムル件

在外研究員ノ増員並ニ教官ヲ外國ヘ派遣ノ件〔大正十二年度以降報告とほぼ同文につき省略。〕

工藝部塑造教室設置ノ件〔大正十五年度報告と同文につき省略。〕

女子部新設ノ件〔大正十年度以降報告とほぼ同文につき省略。〕

本校付属奈良研究所設置ノ件〔大正十二年度以降報告とほぼ同文につき省略。〕

陳列館増設ノ件〔本件については大正十三年度以降記載があるが、予算が若干認められたことに伴い文章が改められた。〕

如何ナル種類ノ學校モ参考標本ヲ必要トセザルモノナシト雖殊ニ本校ノ如キ特殊ノ學校ニ於テハ是等参考標本ハ殆ト其生命トモ謂フヘキモノナルガ故ニ本校ニ於テハ之ガ爲多年蒐集ニ努メタル結果其数決シテ尠少ナラズ　カクシテ蒐集シタル標本参考品モ現在ニ於テハ不完全ナル倉庫ノ一部及教場ノ一隅ニ雜陳シ生徒ノ教養ノ資ニ供シツヽアルモ素ヨリ狹隘ナル爲観覧セントスル生徒ノ員数ニモ自ラ制限セラルヽノ止ムナキニ至リ不便ヲ感スルコト一切ニ止マラズ　此ノ故ニ之等標本参考品ノ陳列館新設ニ關シテハ数年ニ亙リ反復縷陳シタル所ナルガ漸ク本年ニ至リ其希望ノ一部ヲ容認サレ若干豫算額ノ給付ヲ受クルニ至リタルハ深ク感謝スル所ナリ　サレド多年蒐集セル参考標本類ハ相當ノ大数量ニ上リ居ルヲ以テ當初要求額ノ三分ノ一ニモ足ラザル小規模ノ陳列館ヲ建設シ得ルトスルモ到底之ヲ以テ本校ノ希望ヲ満足スル能ハサルモノナルニ付更ニ四年度ノ豫算ニ於テ其増築計畫ノ費額ヲ計上シ重ネテ要請スル所アルベク切ニ考慮ヲ垂レラレンコトヲ望ム

雜件

生徒實験ノ資ニ供スル爲諸所ヨリ依嘱ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノノ中重ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ

依嘱製作一覧

品目	数量	受託年度	竣功年度	依嘱者
油繪肖像畫	貳面	昭和二年度	昭和二年度	新島善直
花盛器	貳個	同	同	農林省
同	貳個	同	同	同
同	貳個	同	同	同
賞牌	四百九十七個	同	同	同

『東京美術学校校友会月報』記事抜粋

東京美術學校近事〔二巻二五―八号。S・二・三・二三年・月・日〕

○職員辭令

昭和二年一月二十二日

紘勲六等授瑞寶章　教授　森井　健介

同　年二月一日　神戸高等工業學校教授兼本校教授　古宇田　實

敍從四位　　教授　大島勝次郎
（各通）　　同　清水　龜藏
　　同　津田　信夫
敍從六位
同　年同月三日　　教授　石田　英一
金工術研究ノ爲滿三年間佛蘭西國ヘ在留ヲ命ス
同　年同月十二日　　講師　金澤　庸治
學術研究ノ爲兵庫縣下ヘ出張ヲ命ス　但往復共五日間ノ事
同　年同月二十六日　　教授　大村　西崖
敍從四位
同　年同月二十八日　　藤本　萬作
本校講師ヲ囑託ス　但金工科鍛〔鍛〕金實習授業擔任
同　年三月二日　　教授　矢代　幸雄
歐洲各國北米合衆國及英領加奈陀ヘ出張ヲ命ス
○森井〔健介〕教授ハ一月十七日横濱高等工業學校講師ヲ囑託セラル
○沼田〔勇次郎〕教授ハ一月二十日ニ本校奏任官代表トシテ大正天皇殯宮ニ祗候セラル
○正木〔直彦〕校長、岡田〔三郎助〕教授、和田〔英作〕教授、島田〔佳矣〕教授、川合〔芳三郎〕教授ノ五氏ハ孰レモ一月二十三日ニ殯宮ニ祗候セラル
○森井〔健介〕教授ハ二月二日奏任官代表トシテ殯宮ニ祗候セラル
○二月七日　大正天皇ノ大喪儀ニ付正木〔直彦〕校長、岡田〔三郎助〕、和田〔英作〕、藤島〔武二〕、〔島田佳矣〕四〔五〕教授ハ鹵簿内奉送トシテ參列セラル
○田中講師（豐藏氏）ハ朝鮮京城帝國大學法文學部講師ヲ囑託サレ總督府ヨリ美術史研究ノ爲印度、英吉利及北米合衆國ヘ在留ヲ命セラレ在留一年半ノ豫定テ一月三十一日出發セラル
○香取〔秀治郎〕講師ハ二月二十四日帝室博物館學藝委員ヲ仰付ラル

東京美術學校近事〔二六―一。S・二・六・二三〕

○職員辭令
昭和二年三月一日　　教授　小堀　鞆音
（各通）　　教授　川合芳三郎
敍從四位
同　年同月五日　　教授　六角注多良
學術研究ノ爲富山縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共五日間ノ事
同　年同月七日　　田中　喜作
本校講師ヲ囑託ス　但美術史授業擔任

同　年同月八日　教授　大村　西崖

敍正四位　特旨ヲ以テ位一級被進

同　年同月十二日　助教授　田邊　孝次

學術研究ノ爲靜岡縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共一日間ノ事

同　年同月十五日　歩兵第三聯隊附　陸軍歩兵少佐　神保豐治郎

東京美術學校服務ヲ命ス

歩兵第三聯隊附　陸軍歩兵少佐　山口　一二

東京美術學校服務ヲ免ス

同　年同月十六日　白濱　洵

東京美術學校雇ヲ命ス　教務掛ヲ命ス

同　年同月十七日　羽下　修三

本校講師ヲ囑託ス　但彫刻科木彫實習授業擔任

同　年同月二十二日　教授　北村　西望

忌引ヲ免ス

東京帝室博物館鑑査官　講師　高橋　健自

敍勳五等授瑞寶章

同　年同月二十五日　教授　島田　佳矣

教員檢定委員會臨時委員被仰付　第三部屬ヲ命ス　講師　鈴川　信一

同　岡田　起作

教員檢定委員會臨時委員被仰付　第二部屬ヲ命ス　深田　敏子

東京美術學校雇〔ヲ〕ヲ命ス　文庫掛ヲ命ス

御用濟ニ付解雇　臨時雇　向　英就

同　年同月二十八日　教務囑託　小幡　貞造

依願解囑

同　年同月三十日　助教授　松田　義之

（各通）　同　高橋　吉雄

圖畫教授法實地研究ノ爲千〔葉〕葉、埼玉、茨城、栃木、神奈川、靜岡六縣下ヘ出張ヲ命ス

同　年同月十五日（三十日官報）

敍正四位　東京帝國大學教授　講師　關野　貞

同　年四月二日　齋藤　幸晴

本校講師ヲ囑託ス　但體操授業擔任及教務掛兼勤ノ事

同　年同月五日　教授　清水　龜藏

助教授　和田　季雄

講師　山崎覺太郎

學術實地指導ノ爲京都府奈良縣和歌山縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共十七日間ノ事

書記　古田　坂松
同　増井　兼吉
同　谷本千代雄

本校生徒旅行ニ付京都府奈良縣和歌山縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共十七日間ノ事

同　年四月六日

東京美術學校教授兼東京商科大學豫科教授　久米桂一郎

依願免兼官

同　年同月十一日

羽野　禎三

東京美術學校助手ヲ命ス　圖案科勤務ヲ命ス

教授　沼田勇次郎

金工科鑄造科ニ課スル彫刻實習授業擔任ヲ免ス　工藝部各科ニ課スル塑造實習授業擔任ヲ命ス

助教授　田邊　孝次

工藝史東洋彫刻史東洋美術史授業擔任ヲ命ス

助教授　松田　義之
同　高橋　吉雄

圖畫師範科ニ課スル用器畫法授業擔任ヲ命ス

教授　渡邊　啓三

工藝部第一學年主任ヲ免ス

助教授　和田　季雄

工藝部第一學年理事ヲ免ス

同　年同月十二日

奈良縣技師　岸　熊吉
正七位　新納忠之介

本校生徒奈良縣修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス

同　年同月十五日（官報）

助教授　千頭　庸哉

敍正七位（四月一日）

○教官會議　三月十六日午前十時より會議室に於て本年度學年末に於ける生徒及落の決定並に特待生選定等に關する件を議す

本年の特待生

日本畫科

東山　新吉（二年）
網野　亮俊（三年）
淺野　正俊（四年）
川部東次郎（五年）
三輪　敏夫（五年）

西洋畫科

守田　滋（二年）

彫刻科塑造部

奥田　勝（二年）
中島　浩（三年）
梁川　剛一（五年）

彫刻科木彫部

松〔原〕厚正明（二年）
中野　四郎（五年）

建築科

中川　良一（四年）
村田　政眞（四年）

圖案科

關　力（二年）
玉生　寛治（三年）
渡邊　欣一（四年）
黒田千吉郎（四年）

金工科彫金部

後藤　學一（二年）
會田　留吉（四年）
海野　建夫（五年）

金工科鍛金部

中島　正雄（三年）

鑄造科

八井　孝二（四年）
黒田　清純（五年）

漆工科

山本　利雄（四年）
笠間　與男（五年）

卒業式

三月二十四日第三十六回卒業證書授與式を本校大講堂に於て擧行す。例年の如く午前十時新卒業生式場に入り著席、鈴川教務主任より式に關する注意あり、次で職員、卒業生、來賓の著席せらるゝ

や、正木〔直彦〕學校長の式辭に始まり、各科總代に卒業證書を授與。校長の告別辭、文部大臣訓辭代讀、卒業生總代（建築科大澤健吉）答辭にて式終る。職員及新卒業生は本館玄關前にて紀念の撮影をなす。

卒業生科別人員

科名	本科	選科	特別學生	計
日本畫科	二一	〇	〇	二一
西洋畫科	三五	四	一	四〇
彫刻科 塑造部	八	九	〇	一七
彫刻科 木彫部	三	四	〇	七
建築科	五	〇	〇	五
圖案科	一五	〇	〇	一五
金工科 彫金部	二	一	〇	三
金工科 鍛金部	二	〇	〇	二
鑄造科	〇	一	〇	一
漆工科	四	〇	〇	四
圖畫師範科	二五	〇	〇	二五
合計	一二〇	一九	一	一四〇

卒業生姓名及卒業製作目錄（席次イロハ順）

日本畫科

果園	本科	岩田覺太郎	清澄山
熊野路	同	花田　實	粧ひ
小春	同	大野　秀雄	吉崎風景
	同	大山　正三	麗春
	同	荻原　達義	洛外清趣二題
	同	和田藤十郎	晩春
	同	川村　俊一	清遊
	同	香川　光廣	骨牌
	同	吉田　曹好	姉妹
	同	吉田三樹三	霜晨
	同	田岡　耕作	遲日
	同	武田勘右衛門	母子
	同	長澤　信雄	早春の丘
	同	山本　求	小津秋景
	同	小堀　安雄	山村初秋
	同	荒井　浩	湘南初冬
	同	佐藤良一郎	山ふところ
	同	坂井　清	夜
	同	宮崎　八一	
	同	白尾　庚	
	同	平岩長四郎	

西洋畫科

裸女	自畫像	本科	犬丸　順衛
遠き思ひ	同	同	池田幸太郎
畫室の裸女	同	同	石井　清夫
編物する女	同	同	本多　治郎
新しき生活	同	同	大月　源二

翠扇　同　荻野　暎彦
F氏の像　同　荻須　高徳
庭　同　加山　四郎
裸婦　同　河田　煦
早秋　同　太刀川英次郎
裸女二人　同　田村　義夫
裸體少女　同　高橋　弘二
少女裸　同　高島　功
春　同　瀧波　恒雄
Arlequin の假装　同　瀧澤　健三
花を配せる婦人像　同　中西　利雄
M老人と小鳥　同　中川規矩麿
La danseuse　×　同　永田　一脩
猿芝居　同　牛島　憲之
座れる女　同　山口　長男
麗人立像　同　矢田清四郎
果物籠を持てる女　同　深井　修次
ダンス靴はく女　同　藤岡　一
夜　同　小堀　四郎
鶴田氏のアトリエにて　同　近藤　啓二
娘　同　青山　襄
彼の休息　同　小磯　良平
女と花　同　水上　信雄
骨牌　同　白井　次郎

おとゞひ　同　島野　重之
裸　同　日高　政榮
裸女　同　森　寅雄
椅子による裸婦　同　森　達雄
或る夫人のプロフィル　同　杉浦　俊雄
裸婦　同　菱田　武夫
髪梳く女　選科　張　秋海
裸女　同　顔　水龍
靜物　同　金　貞埰
裸婦　同　都　相鳳
俯視　特別學生　譚　連登

彫刻科

塑造部

靜座　本科　星　三郎
夢想　同　中田猪千二
婦人立像　同　海野亥之輔
赤い立像　同　安永　良德
處女　同　松山　兼政
頭の小さい女　同　安藤　秀吉
立てる若人　同　木村　珪二
豊　同　杉田　忠治
少女　選科　猪又倭文雄
おんな　同　橋本　敦喜
婦女　同　小倉　政二

女の首　同　竹田　金一
裸婦　同　安枝　馨
腰かけた女　同　松尾　薫
ポーズせる女　同　宮地　寅彦
トルソ　同　平賀　錬二
戰へる女人　同　片岡　環

木彫部

犬　本科　高橋　泰藏
觀音　同　山下　慶治
秋　同　山田　忠治
裸像　選科　大川　逞一
女　同　山本　克孝
追想　同　平松　眞二
釋迦　同　森　大造

建築科

施療病院　本科　石持　甚作
日華藝術聯盟協會會館　同　千葉　一胤
工藝學校　同　大澤　健吉
Maison De Pieride　同　田原　武雄
新聞社　同　柴田　六郎

圖案科

近代生活意匠圖案（或ル室内ノ構想）　本科　池邊　義敦
工業地帶（都市）ニ於ケル遊園地設計圖案　同　石川　正己
裝飾文樣（樂園）　同　服部　尙子
書棚及飾品圖案　同　羽野　禎三
裝飾文樣（懊惱）　同　長安右衞門
染刺繡應用衝立圖案（長閑）　同　吉江　景二
卓布文樣　同　竹内　三男
裝飾圖案　同　成田虎次郎
室内裝飾圖案（A）食堂（E）少女寢室空　同　村瀨　美樹
婦人化粧室内用具圖案　同　白尾榮三郎
裝飾圖案（太陽讃歌）　同　毛利　登
壁掛圖案（みのり）　同　瀨尾　永敏
印度劇舞臺及服裝圖案　同　妹尾　壽信
店頭裝飾及各種工藝圖案　同　鈴木　信任
絨氈圖案　同　鈴木　正道

金工科

彫金部

花盛器　本科　神田不二男
飾置物　同　寺崎　有作
花瓶　選科　富田　稔

鍛金部

釣花盛　本科　八田辰之助
裝飾楯（The Eternal Vision）（Tpe etel.nal Aision）　同　品田　愼一

鑄造科

花瓶　男性　選科　佐久間輝清
女性

漆工科

器局　本科　針田　市造

丸箱（華鳳文）　同　唐澤　榮作
盛物器　同　小川　金重
文臺（朝）　同　鈴木　壽二

圖畫師範科

就職學校名

熊本縣立人吉中學校　岩田　民也
福井縣立敦賀高等女學校　井上　新治
東京府立第一商業學校　池田格次郎
宮崎縣立妻中學校　馬場　進一
福島縣師範學校　原田　茂
鹿兒島縣立出水高等女學校　外河　武夫
圖畫師範科研究科在學　陳　澄　波
臺灣臺南長老中學兼長老高女　廖　繼　春
富山縣女子師範學校　王子　清
北海道廳立室蘭中學校　大平　方
東京市立商業學校　神藏　貫一
熊本縣第二師範學校　糟谷　實
山形縣立酒田高等女學校　吉川　安雄
北海道廳旭川師範學校　大宮司正一
愛知縣立豐橋第二中學校　田中　尚
宮城縣立白石中學校　永沼　貞雄
北海道廳立旭川中學校　上野　成之
千葉縣立安房中學校　山尾　薫明
宮城縣立築館中學校　山本　文司
福井市立實科高等女學校　山岸與三治
長野縣立上田中學校　櫻庭　彦治
鳥取縣女子師範學校　光岡　始
群馬縣立太田高等女學校　宮川　退三
宮崎縣師範學校　宮崎　豊
岐阜縣立惠那中學校　尾關重之〔丞〕〔亟〕

新入學生　本年の入學志〔望〕望者は本科五八九名　選科四八名　特別學生二三名　圖畫師範科一九一名　合計八五一名にして入學試驗の結果一八〇名を選拔入學を許可された

新入學生人名（姓名いろは順）

日本畫科

岩城　照夫　馬場　一雄　花岡　勇二　林谷　乙治
蓮見　廣門　堀田　文雄　大岩　德　横山　鑛治
高橋　博　成澤　精一　中西　一郎　長嶺　雅男
町田　成明　藤森松兵衞　伏石　繁男　有海喜久造
赤井隆二郎　櫻井眞太郎　水谷　春夫　宮原　武文
住田　優

西洋畫科

岩松　惇　石川　滋彦　濱口　喬夫　牲川　英雄
戸田　郁郎　大岡　文男　大西　信義　岡　一郎
鷲尾　敬義　加藤　清一　吉川　清　田邊　門樹
王〔玉〕置　弘三　竹田　定明　竹內　捷司　塚本　張男

名渡山愛順　中根　岡一　長嶺武四郎　黒田　賴綱
柳澤　松一　山下　武郎　松永　隆　圓城寺　昇
寺田　賴一　齋藤　鴻三　齋藤　求　佐藤　久雄
佐久間忠助　佐々木四郎　木下　幹一　水島　清
島田彦五郎　島津　一郎　白川　一郎　下村　源吾
椎原　治　廣田　威安　廣田　重男　妹尾　壽信
杉村　惇

西洋畫科特別學生

朴　魯弘　朴　根鎬　李　馬銅　李　景湊
何　德來　韓　三鉉　吉　鎭燮　金　應璡

彫刻科塑造部

入江　弘林　是　堀江　泰夫　大島住之助
大森　弘若島　俊夫　龜谷　義男〔雄〕　高木　健次
中村　惠藏　永峯　清　松木　治　福田　安敏
笹村　良紀　新谷　秀雄　菅沼藤太郎

彫刻選科塑造部

井上　安一　長谷川正雄　尾池理三郎　大石　兼男
龜田千代造　關東　賢二　前田與十郎　文　錫五
有地　重則　齋藤長四郎　北村　信治　水野金三郎
介川　芳松

彫刻科木彫部

石塚　貞男　奥山　泰堂　嘉手納　宏　安田　春男
江上　正男　清水　利治

彫刻選科木彫部

岡田　春吉　片倉　仁　小林　芳聰　青柳　謹衛

建築科

小野田　明　小口　良一　加倉井昭夫　村松作次郎
梅田　良雄　松浦　主税　後藤嘗一郎　天野　正治
佐保　新

圖案科

池田　美明　林　龜次郎　押野　芳文　片野　久夫
蒲生　寛　吉村幸一郎　谷内　尙文　辻　復
向井福三郎　福井　尙武　小山　彦三　越田　喜作
遠藤彌四郎　我妻　榮　篠原　成勝

金工科彫金部

長谷川　昇　笠原八洲男

金工科鍛金部

知坂　浩　小杉　喜吉　鈴木　孝次

鑄造科

秤　雄吉　戸島　巖　多田　茂吉　辻　正雄
國松秀二郎　山田　熊男　淺野　茂夫　新免　弘男

漆工科

河本　泰明　横田　啓二　吉田佐久穂　田窪　眞吾
熊谷　茂

漆工科選科二年

長谷川章吾　影山　治見　吉田　隆二

圖畫師範科

岩瀨富士雄　池之上秀志　出水　勝利　原田　峻一

日置加賀夫　陳　承藩[潘]　若林　民治　川口　只夫
片岡　龍也　吉川　育次　大家　成哉　高橋　五郎
高田　克巳[己]　根本　義康　中村新次郎　大貝彌太郎
工藤　正義　藤原德太郎　小關　利雄　赤塚　時雄
清田　實　金　道郷　三浦　次郎　溝田　豐
水野　一好　宮崎　央

職員動靜

石田英一教授の出發　金工研究の爲め佛蘭西へ留學を命ぜられた同氏は加茂丸で出發の樣傳へられて居たが都合上少しく延びて愈々四月二十五日東京驛出發　夫人同伴京阪見物の上一[二]十八日神戸港出帆の熱田丸に乘船せらる　同日は恰も古美術實地見學連解散の翌日なりし爲め和田季雄、海野建夫、磯崎美夫の諸士見送りに加はり夫人及卒業生江島君其他數名の見送人と共に五彩のテープを交叉して同氏の行を盛ならしむ

○入學試驗問題

本年度入學試驗問題

昭和二年三月　圖案科　金工科　鑄造科　漆工科　歷史入學試驗問題

左ノ諸項ヲ年代順ニ列ベテ知ル所ヲ記セ

1、島原ノ亂　2、金閣　3、正倉院　4、日蓮　5、新井白石　6、藤原道長　7、平安奠都

昭和二年三月　工藝部國語入學試驗問題

一、左の語句を解釋せよ

1、彼の作品は千篇一律で且つ全くの想像に馳せてゐる。
2、櫻花は優美で濃艶、梅花は清楚で高邁の氣韻に富んでゐる。
3、讀書三昧。4、提携。5、安寧。

二、左の文字に假名を付けよ。

1天晴、2、義損[捐カ]。3、期待。4體裁。5、船出。

三、書　取

1、ハツタツ。（ひらけすゝむ）
2、クワンケイ。（かゝはり）
3、ハンシヤ。（てりかへし）
4、カチ。（ねうち）　5、コウザウ。（くみたて）

作文入學試驗問題（金工科　鑄造科　漆工科）

本校へ入學を志したる理由。（圖案科）

同　衣食住と圖案との關係に就て。

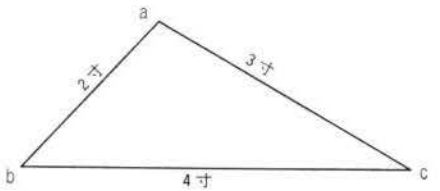
［図画］師範科入學試驗問題

昭和二年三月十七日

用器畫法

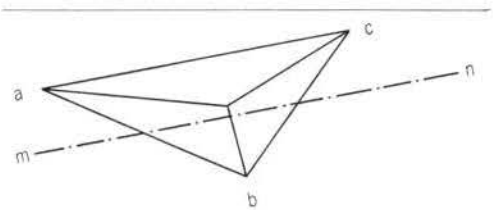
(1) 一邊三寸ノ正方形ヲ畫キ之ニ適合スル幾何模樣ル畫ケ[ヲ]
(2) 直徑二寸四分ノ圓ニ內接シ且ツ互ニ外接スル六個ノ等圓シ畫ケ[ヲ]

(3)　下圖三角形abcハ底邊bc水平面ニ接シ頂點aハ水平面上二寸ノ高サニアル時ノ平面圖ナリコノ三角形ノ實形ヲ求メヨ。



(4)　三角錐體アリ之ヲ下圖ノ如ク水平面ニ垂直ナル平面mnニテ截斷シタル立面圖ヲ畫ケ　但シ錐體ノ高サヲ二寸トス
（コノ形ヲ寫シ畫クベシ）

注意　製圖ハナルベク正確ニ畫キ，製圖ニ用ヒシ線ヲ總テ殘シ置クベシ



圖畫師範科入學試驗問題　昭和二年三月十九日　自午前八時至午前十時

英　語（コノ用紙ノ餘白ニ書クベシ）

英文和譯

1. One morning, as we waited for breakfast, we noticed that amongst father's there was one from Japan. This we knew because we saw the Japanese postage stamp on the envelope.

2. Many people are poor, who might be rich, because they spend all the money they are able to earn. To most people, it is much easier to earn money than to save money. One of the chief couses of this is the result of bad management.

和文英譯

1　中學ヲ卒業シテカラ其大部分ハ專門教育ヲ受クル人々デアル。

2　私ノ故郷ハ東京ヲ距ル二百里デ山ト海トノ景色ガ形容ノ出來ヌ程美シイ。

圖畫師範科入學試驗問題

昭和二年三月十九日
自午前十時
至正午

一、奈良朝時代に於ける支那との關係につき略述せよ。

二、ウキーン會議に就き略述せよ。

三、左の事項に就き略述せよ

1、聖德太子、2、ペスタロッチ、3、王守仁、4、司馬江漢
5、金澤文庫

國　語　圖畫師範科入學試驗問題

昭和二年三月十九日　自〔ママ〕至午後一時
午後四時

作文習字ハ都合ニヨリ廢シタリ、答案ハ丁寧ニ毛筆ニテ認ムベシ。

一、左の語句を解釋せよ。

1、國策樹立、2、荏苒。3、白眉、3、紳縮〔伸カ〕
4、斷腸の思、

二、左の語に讀み假名をつけよ。

1、渴仰、2、該博、3、沮喪、4、盡瘁、5、索引、

三、書　取

1、サンラン、2、バンサン、3、レンラク　5〔4〕、ソウジ
5、モウラ、6、ケンコウ、7、ハンプク、8、キヤウフ。

昭和二年三月　東京美術學校各科實技人〔入〕學試驗問題

日本畫科
- 寫生
  - 其一。黃水仙一本（毛筆畫又ハ鉛筆着色畫）
  - 其二。林檎一個及慈姑一個組合セ構圖（毛筆畫又ハ鉛筆着色畫）

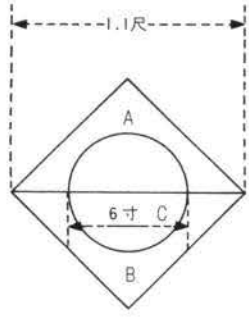
西洋畫科
- 寫生　石膏胸像（木炭畫）

彫刻科塑造部
- 1、塑造　石膏マスク模作
- 2、寫生　石膏胸像（木炭畫又ハ鉛筆畫）

彫刻科木彫部
- 1、木彫又ハ塑造　木彫ハ平肉手板模作（桐）
- 2、塑造ハ厚肉手板（鷲ノ首）模作
  寫生　石膏胸像（木炭畫又ハ鉛筆畫）

建築科
- 寫生　石膏胸像（ミケランジエロ半面像）（木炭畫又ハ鉛筆畫）

圖案科
- 寫生
- 圖案
  紅百合、くわゐ（毛筆畫又ハ鉛筆淡彩畫）ばらヲ資料トシテ（實物ヲ與フ）上圖ニ充塡シタル圖案ヲ作ルベシ。但シA、B、Cノ地色並ベ模樣ノ形式ハ各々異ナルヲ要ス。



金工、鑄造、漆工科
- 寫生
  小サキ風呂敷ト花（チユーリップ）（毛筆畫又ハ鉛筆畫）石膏胸像（ミケランジエロ半面像）木炭畫）
- 塑造
  中肉手板（花辨）

圖畫師範科
- 寫生
  - 其一。金戔花（水彩、鉛筆淡彩又ハ毛筆畫）
  - 其二。石膏胸像（木炭畫又ハ鉛筆畫）
- 圖案
  箱圖案。但シ蓋ヲ展開シ、之ニ早春ノ心持ヲ表ハス模樣ヲ施セ色、大サ隨意

建築科入學試驗〔同〕題

英　語（昭和二年三月二十九日　自午後一時　至同　三時）

I　次の文を和譯すべし

1. You want for a friend some whom you would like to have with yon〔u〕 in trouble, shoulu〔d〕 yon〔u〕 meet it, as well as in sport; such a one is one who has your respect.

2. The American mother, whatever her situation, attempts to bestow upon her children what she did not possess; and she makes an effort to imitate as little as possible what her mother〔are〕 did.

3. All good books of the hour a e simply the useful or

pleasant talk of some person whom yon[u] cannot otherwise converse with, printed for you. Very useful often. telliug[n] you what you need to know; very pleasant often, as a sensible friend's present talk would be. But we make the worst possible use, if we allow them to usurp[ママ] the place of true books; for,strictly speaking they are not books at all, but mete[ママ] y letters or newspapers in good print.

Ⅱ　次の文を英譯すべし

1　ロダン（Rodin）はモデルにある姿勢を強るやうなことは決してしなかつたと云ふことです。

2　近頃東京では様々な様式の建築が見られるので甚だ興味があります。

昭和二年三月　建築科試驗問題

數學　　時限二時間

1　甲驛ヨリ乙驛ニ向ヘル汽車ガ30哩ヲ走リシ中機關ニ故障ヲ生ジ10分間停車シタソレヨリ速サノ$\frac{1}{3}$ヲ減ジタル爲メ定刻ヨリ1時間延着シタリ　モシ故障ガ出發後2時間ニシテ起リシナラバ（停車時間等前ヽ同様）前ノ場合ヨリモ22′5分丈早ク到着シ得タルベシ、甲乙兩驛間ノ距離ヲ求ム

2　$\frac{m+n}{a}=\frac{n+1}{b}=\frac{1+m}{c}$ナル時1：m：nノ比ヲ a,b,c, ニテ表ハセ

3　三角形ノ一邊ニ垂直ナル直線ヲ引キ其三角形ヲ二等分スル事

4　直圓壔ノ軸ニ平行ナル平面ニヨリテノ截口ハ矩形ナル事ヲ證セヨ、

5　$A+B+C=180°$ナル時ハ $\mathrm{Cot}\frac{A}{2}+\mathrm{Cot}\frac{B}{2}+\overset{[\mathrm{Cot}]}{\mathrm{C}}\mathrm{to}\frac{C}{2}=\mathrm{Cot}\frac{A}{2}\,\mathrm{Cot}\frac{B}{2}$ナル事ヲ示セ

昭和二年三月建築科歴史試驗問題

三時間

一、明治維新、

二、天草ノ亂、

三、東羅馬帝國ノ興亡、

四、十字軍、

五、差記[左]ノ人ノ事蹟、

（イ）足利義政、

（ロ）中大兄皇子、

（ハ）伊達政宗、

（ニ）ジュリアス、シーザー、

（ホ）ミケロアンゼロ、ボナロチー、

昭和二年三月

建築科用器畫法試驗問題

製圖ハ正確ナルヲ要ス、

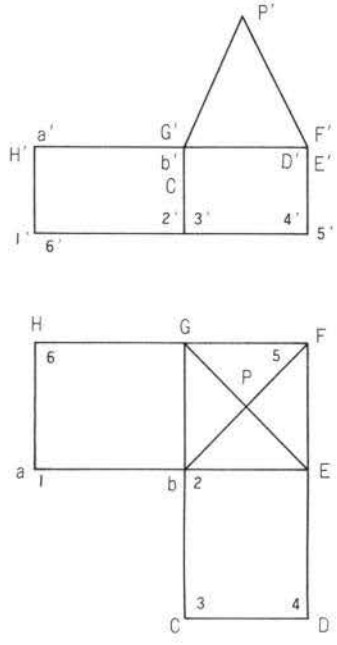
製圖ニ必要アル線ハ全部保存スベシ、

圖形ヲ明瞭ナラシムル爲ニ記號ヲ要ス

四、圖ノ如キ多角形ノ展開圖ヲ求ム、但シ厚〃ハ鉛筆ノ太サトス、

工藝部用器畫法試驗問題（昭和二年三月廿九日）　二時間

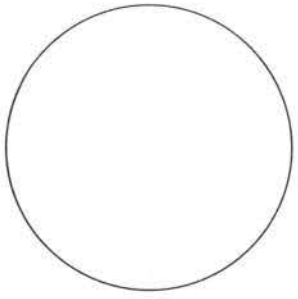
志望科名
性〔姓〕名



注意、總テ說明ヲ要セス符號ヲツケテ正確ニ畫クベシ

（一）　與ヘラレタル三角形ト等積アル正方形ヲ畫ケ

（二）　左ノ圓形ヲ二等分シ且ツ其中心ヲ求ム



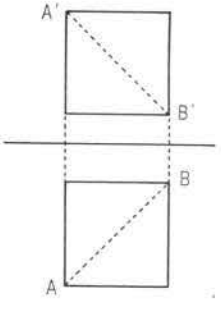
二時間

工藝部用器畫法試驗問題（昭和二年三月廿九日）

志望科名
性〔姓〕名

注意、線〔總〕テ說明ヲ要セズ符號ヲツケテ正確ニ畫クベシ

（三）　左圖ハ立方體ノ投影圖ニシテハ〔ママ〕Bハ其對角線ヲ示スモノナリ然ハ其對角線ノ實長ヲ現ストキノ投影圖ヲ畫ケ



二時間

工藝部用器畫法試驗問題（昭和二年三月廿九日）

志望科名
性〔姓〕名

注意、總テ說明ヲ要セズ符號ヲツケテ正確ニ畫クベシ

（四）　左圖ノ如ク角柱ヲ平面〔ママ〕M、N、Oヲ以テ截斷シタルトキノ平面投影ト其實形展開及ヒ圖ヲ畫ケ

昭和二年三月

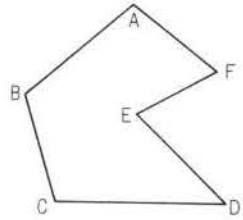
建築科用器畫法試驗問題

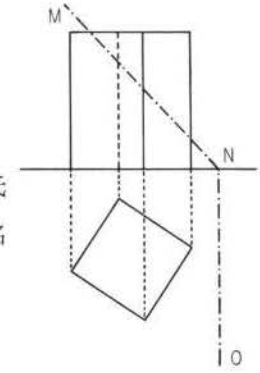
注意、製圖ハ正確ナルヲ要ス

製圖ニ必要ナル線ハ全部保存スベシ、

圖形ヲ明瞭ナラシムル爲ニ記號ヲ要ス、

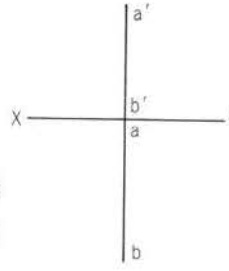
一、多角形A、B、C、D、E、F、ト等積ノ平行四邊形ヲ作レ





氏名

二、A、B、直線ノ實長及兩面トナス實角ヲ求ム



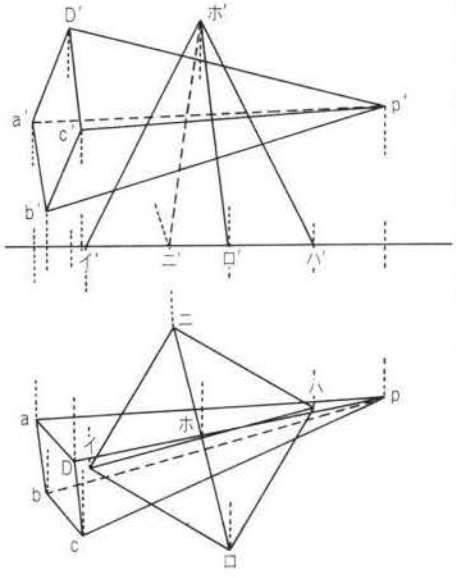
昭和二年三月

建築科用器畫法試驗問題

注意　製圖ハ正確ナルヲ要ス　製圖ニ必要ナル線ハ全部保存スベシ、

圖形ヲ明瞭ナラシムル爲ニ記號ヲ要ス、

三、圖ノ如キ兩角錐ノ相貫體ヲ求ム



氏名

東京美術學校近事〔二六―二〇。S・二・七・九〕

○職員辭令

昭和二年四月一日（四月十五日官報）

敍正七位　助教授　千頭　庸哉

同　年同月十五日（五月十一日官報）

帝室博物館鑑査官

敍從五位　講師　高橋　健自

同　年四月二十七日

故大村西崖妻　み　ほ

東京美術學校教授大村西崖在官中死亡ニ付年俸三分ノ一下賜

學術研究ノ爲石川縣及大阪府ヘ出張ヲ命ス　但往復八日間ノ事　教授　島田　佳矣

學術研究ノ爲大阪府ヘ出張ヲ命ス　但往復共三日間ノ事　教授　津田　信夫

同　年五月六日

第六回朝鮮美術審査委員會委員ヲ囑託ス　教授　結城　貞松　講師　今泉　雄作

同　年五月十日

學術研究ノ爲愛知縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共四日間ノ事　教授　森井　健介

同　年同月二十日

學術實地指導ノ爲神奈川縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共一日間ノ事　助教授　小泉　勝爾

同　年同月二十四日

東京美術學校服務將校　陸軍歩兵少佐　神保豐治郎

任陸軍歩兵中佐

同　年六月七日

本校講師ヲ囑託ス　但日本畫科繪畫實習擔任ノ事　山田　廉

任東京美衆〔術〕學校書記　會計掛ヲ命ス　佐藤　重吉

同　年同月同日

（各通）

學校長　正木　直彦

教授　六角注多良

同　津田　信夫

講師　香取秀治郎

工藝審査委員會委員被仰付

同　年同月八日

金工科鍛金部理事ヲ命ス　助教授　野口　六三

金工科鍛〔金〕部理事ヲ免ス　教授　石田　英一

同　年同月十三日

本校講師ヲ囑託ス　但建築科ニ課スル建築意匠授業擔任ノ事　岡田捷五郎

同　年同月十七日

陞敍高等官五等　教授　矢代　幸雄

同　年同月二十一日

忌引ヲ免ス　教授　北村　西望

○正木〔直彦〕校長ハ四月三十日ヨリ五月六日ニ至ル間美術上ニ關スル調査ノ爲石川新潟兩縣内ニ出張セラレタリ

○結城〔貞松〕教授ハ今泉老〔雄作〕講師ト共ニ本年朝鮮美術審査委員會委員ヲ囑託セラレ五月十五日東京出發朝鮮京城ニ赴キ審査用務ヲ果タシ一二箇所遊覽ノ上六月一日歸京サレタリ

○北村〔西望〕教授ハ六月八日老嚴父郷里長崎縣南有馬村ニ於テ逝去ノ爲急遽歸郷忌引中ノ處廿一日歸京ノ上出校サル　職員厚誼會ヨリ規定ノ香奠ヲ贈リタリ　同教授ハ去ル三月中萱堂ノ喪ニ遇ハレ今又三月ナラズシテ嚴父ヲ哭セラレタルハ洵ニ痛悼ノ至ニ堪エズ

狹窄射撃場新設開場式

校内に狹窄射撃場がほしいと思つたのは本校に教練教官が派遣せられる前からの事だつたが文部省の方針で軍事教練が實施せられ山口〔一二〕少佐が赴任せられると、運動部長は好機逃すべからずと、校長にもお願ひし危險のない事をも說明してお許しを得たが、機熟さずで延び〳〵になつて居たのが今日その開場式を擧行し、正木〔直彦〕校長に依つて第一彈第二彈が射たれ玆に使用する事の出來るやうになつたのは、たゞに教練上からばかりでなく興味の上からも悅ばしい事だ。

此の立派な射撃〔場〕が出來る事に就ては諸先生の御盡力は申す迄もないが、殊に齋藤〔幸晴〕先生が自ら鍬を執つて土工に努められた事を謝する。

東京美術學校近事〔二六―三。S・二・九・二五〕

○職員辭令

昭和二年六月二十一日

忌引ヲ免ス　教授　北村　西望

同　年同月二十二日

依願帝國美術院會員被免　名譽教授　高村　光雲

同　年同月二十三日

亞米利加合衆國ヲ在留國ニ追加ス　教授　森　芳太郎

同　年同月二十四日

帝國美術院美術展覽會委員被仰付　教授　津田　信夫　同　清水　龜藏　講師　香取秀治郎

同　年同月二十九日

帝國美術院會員被仰付　帝國美術院美術展覽會委員被免　教授　建畠彌一郎

同　年同月三十日

忌引ヲ免ス　　助教授　西田　正秋

同　年七月七日　　教〔授〕援　沼田勇次郎

佛蘭西國政府ヨリ贈與シタル「オフキシエー、ド、ランストリユクシヨン、ピユブリツク」記章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許セラル。

同　年七月十六日（官報登載）　　書記　筒崎　謙齋

敍正七位

同　年同月二十九日

北海道小樽市並秋田、福島兩縣下ヘ出張ヲ命ス　但往復共十一日間ノ事

同　年同月二十三日　　助教授　和田　季雄

學術研究ノ爲千葉縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共三日間ノ事

同　年同月二十九日　　〔教授　清水　亀蔵〕

教授　長原孝太郎

同　松岡　輝夫

助教授　田邊　至

教授　津田　信夫

講師　香取秀治郎

帝國美術院美術屏〔展〕覽會審査員ヲ命ス

同　年八月十九日

敍勳三等授瑞寶章　　教授　久米桂一郎

○津田〔信夫〕、朝倉〔文夫〕兩教授ハ大藏省ヨリ七月一日付ヲ以テ造幣局彫刻事務ヲ囑託セラレタリ

○田邊助教授（孝次）ハ後備役陸軍歩兵少尉トシテ勤務召集ヲ受ケ八月五日ヨリ三週間歩兵第三聯隊習志野營舍ニ於テ勤務セラル

暑中職員動靜一斑

○正木〔直彦〕校長　八月十一日より大阪市へ旅行　同市郊外に滞在　同月廿七日歸京せらる。

○久米〔桂一郎〕教授　八月一日より伊豆の内浦村三津海岸へ旅行更に湯河原温泉に轉じ同月廿八日歸京せらる。

○岡田三郎助教授　八月五日より同月二十日に至る間長崎大分を主とし九州地方を旅行せらる。

○藤島〔武二〕教授　七月十六日より一週間愛知縣木曾川方面へ旅行。

○島田〔佳矣〕教授　七月廿八日より富山縣高岡市の講習會へ赴かれ八月二日歸京の上更に石川縣金澤市の講習會に出講され同月十六日歸京。

○鈴川〔信一〕講師　七月廿八日より八月廿五日迄家族隨伴にて千葉縣興津町海岸へ滞在せらる。

○村田〔良策〕講師　八月一日より一週間文化講習會講師として栃木縣栃木町に赴かる。

○藤井〔昭〕講師　七月廿八日より八月廿五日迄京都市へ歸省せらる。

○坂口〔肫〕助教授　七月十四日より一週間山形縣下へ旅行せら

る。

○西田〔正秋〕助教授　七月十六日より熊本市に旅行し八月初より大阪市に逗留の上同月下旬歸京され小石川區久堅町六九にト居せられたり。

○羽野〔禎三〕助手　七月廿五日より八月末迄郷里金澤市に歸省せらる。

○森田助教授（龜之助）九月十二日鹿島丸にて神戸着同十三日朝歸京せらる。

東京美術學校服制（昭和二年九月一日改正）

一制帽　色――黑。地質――羅沙。丸形。如圖。

一帽章　金色美字。如圖。

一制服　色――黑又ハ紺。地質――羅沙又ハヘル。立襟脊廣形。金色美字釦付。科別。襟章ヲ附ス。如圖。

一靴　黑革。編上ゲ又ハ短靴。（儀式及本校ヨリ命ジタル場合ノ外質及色隨意）

一脚胖　色――黑。地質――羅沙。卷形。

備考

一　夏季（自六月一日――至九月三十日）ハ特ニ指定シタル場合ノ外麥藁帽ヲ着用シ霜降小倉服ヲ代用スルモ妨ゲ無シ。

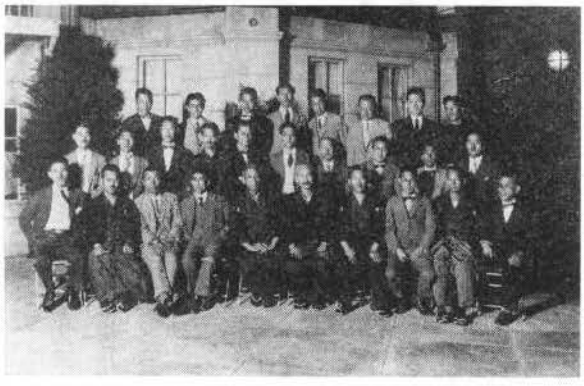
一　外套ハ特ニ制式ヲ定メザルモ之ヲ使用スル場合ニハ質素ニシテ目立タザルモノトス

（圖ハ略ス）

圖案科卒業生の催

（島田〔佳矣〕千頭〔庸哉〕兩氏在職二十五年祝賀會）

本年を以て在職滿廿五年を迎へらるゝ島田教授並に昨年在職滿廿五年を迎へられし千頭助教授の記念祝賀のために、在京卒業生有志發起し圖案科卒業生有志百二十一名の賛成を得て寄附金を集め記念品を贈呈することゝし、去る六月十五日兩先生を京橋第一東洋軒に招待し、島田先生に白金懐中時計並に服地料一封、千頭先生に金側懐中時計一組並に服地料一封を贈呈せり　當夜は在京者のみならず地方より出席したる者もありて盛況を極めたり、殊に此の夜二十年前校庭にて撮影したる圖案科職員生徒の記念寫眞を數葉持參したる



図案科祝賀会記念　（松田弘一氏提供）
前列左より３人おいて小場恒吉、千頭庸哉、島田佳矣

者ありて、兩先生の今日と廿年前の風貌とを比較し、又は此の席上紳士然たる卒業生も昔は一介の腕白書生たりし風、躍如たるものあり一層の興を添えたり。

尚東京美術學校圖案科卒業生名簿な成作お互の連絡を執つて居る。

東京美術學校近事〔二六―四。S・二・一〇・二五〕

○職員辭令

昭和二年七月十五日（九月三十日官報）

敍從七位　助教授　堀井　政吉

同　年九月九日　助教授　海野　清

工藝審査委員會委員被仰付　第二部員ヲ命ス

同　年同月十二日　依願免本官　助教授　小岩　峻

同　年同月十五日　學校長　正木　直彦

明治神宮外苑管理評議員ヲ囑託ス

同　年同月十九日　東京美術學校服務　陸軍歩兵中佐　神保豐治郎

本校生徒野外演習ニ付千葉縣下志津ヘ出張ヲ囑託ス　但往復共四日間ノ事　講師　齋藤　幸晴

本校生徒野外演習ニ付千葉縣下志津ヘ出張ヲ命ス　但往復共四日間ノ事　講師　鈴川　信一　助教授　和田　季雄

本校生徒野外演習ニ付千葉縣下志津ヘ出張ヲ命ス　但往復共二日間ノ事

同　年同月二十日　雇（會計掛）　金田　春吉

依願解雇

同　年同月二十三日　陸軍歩兵少尉正八位　松田　權六

任東京美術學校助教授

同　年同月二十六日　助教授　堀井　政吉

任東京美術學校教授　敍高等官六等　敍正七位

同　年同月二十七日　教授　堀井　政吉

依願免本官　助教授　松田　權六

漆工科蒔繪及調漆實習擔任ヲ命ス

同　年十月五日　雇　白濱　洵

敎務掛ヲ免シ會計掛ヲ命ス

○九月二十八日ヨリ三十日マデ三日間文部省ニ於テ高等師範學校長會議ヲ招集セラレ正木〔直彦〕校長出席セラル

○佐藤〔重吉〕書記（會計掛）ハ勤務演習ノ爲九月一日ヨリ二週間

輜重兵第一大隊ニ召集セラレ陸軍三等計手ニ任ゼラレタリ
○谷本〔千代雄〕書記（文庫掛）ハ九月二十二日付文部省ヨリ帝國美術院美術展覽會事務囑託ヲ命ゼラル

東京美術學校近事〔二六―五。S・二・十一・三〇〕

○職員辭令
昭和二年十月十二日（官報）
敍從六位（八月一日付）　教授　矢代　幸雄
同　年同月十五日　助教授　高橋　吉雄
學術實地指導ノ爲京都府大阪府奈良縣愛知縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共十一日間ノ事
同　年同月十八日　雇　利部房太郎
忌引ヲ免ス
同　年同月廿七日　書記　谷本千代雄
忌引ヲ免ス
同　年同月廿九日　講師　齋藤　幸晴
本校生徒實包射擊演習ニ付東京府下ヘ出張ヲ命ス　但往復共二日間ノ事
同　年十一月一日　助教授　篠田十一郎
學術實地指導ノ爲神奈川縣ヘ出張ヲ命ス　但往復共一日間ノ事
同　年同月二日　助教授　森田　武
忌引ヲ免ス
○田邊助教授（孝次氏）ハ十月廿三日東京高等工藝學校ヨリ講師ヲ囑託セラレ同校ノ西洋工藝史授業ヲ擔當セラル
○島田〔佳矣〕、岡田（信一郎氏）津田〔信夫〕諸教授、田邊（孝次氏）、松田（權六氏）、西田〔正秋〕諸助教授、辻村〔延太郎〕、小場〔恒吉〕、山崎〔覚太郎〕、青山〔新〕諸講師ハ正倉院御物曝涼拜觀ノ許可ヲ得十一月一日ヨリ同十五日ニ至ルノ間ニ於テ夫々奈良ニ赴キ拜觀サレタリ
○正木〔直彦〕學校長ハ外務省文化事業費ヲ以テ支那ニ派遣セラ

慶州石窟庵における校長一行
右より北浦大介、正木直彦、田辺碧堂、溝口禎次郎

ル、コトニ爲リ十月廿八日夜東京驛ヨリ出發サル　文庫主任北浦〔大介〕書記モ隨行トシテ同伴セリ　旅行期間ハ一ヶ月ノ豫定ニシテ朝鮮經由滿洲鐵道ニ依リ十一月七日ニ北京ニ安着セラル

正木〔直彦〕校長一行の動靜

北浦大介氏からの來信を繰合すると十月廿八日東京驛を出發された正木校長一行は慶州、京城、開城に新羅、李朝、高麗の遺跡を訪ひ十一月三日平壤着、樂浪、高句麗の遺跡を見て四日奉天に、七日の夕北京着の由、

『奉天から北京までの汽車は通じてはゐるものゝ停車毎に兵隊が車中を調べに歩く樣子で物騒でした』『戒嚴令を布かれ居り候へ共各方面の歡待至らざるなく或は舊皇居内の傳心殿にて總理出席の盛宴あり或は宣統帝の弟親王の招宴あり或は皇族の來訪ある等えらい優待に恐縮致し居り候』『毎日無事各方面の御馳走攻めにあつてゐます。博物館や所藏家も見廻つてゐますが流石支那美術の名品が殘つてゐます。校長先生は一行中一番健康です』

本校創立第四十回記念日記事

十一月四日　實は十月四日がその實際の日なのだが、帝展の都合で毎年一ヶ月遲れを記念日と定められてゐる。それに今年は日本畫の結城〔貞松〕教授、圖案科の島田〔佳矣〕教授、柔道の井上〔縫太郎〕師範の各廿五年勤續の式とが兼ねて行はれた。但し〔正木直彦〕校長は支那へ旅行中の爲久米〔桂一郎〕教授が式を司られた。教授の言を約言すれば『我が美術學校も四十歳を經て相當の歷史を有するに至り社會的の存在や寄與も多くなつたから今後の學生は益々自重して行くべきである。』と云ふのであつた。式後能狂言二番に一同打寛ぎ晝食後雨模樣ではあつたが第二回の校内運動競技會が催された。小雨の中ではあつたが學生達はこの記念日の催しに皆大いに活躍して元氣を見せてゐた。

職員動靜〔二六―六。S・二・十二・一八〕

正木學校長歸朝

日支美術の提携を主唱しながら行きなやんでゐる東方繪畫協會問題解決のため去る十月下旬より渡支中であつた正木〔直彦〕校長一行四名（北浦、〔ママ〕大介氏、溝口禎次郎氏、田邊碧堂氏）は命を全し併せて滿鮮、支那の美術視察を終り十二月七日午前十一時三十分東京驛歸着元氣頗る旺盛出迎の庶務主任に「午後は學校へ行きます」と云はれた、芹澤〔閑〕氏恐縮「先一日御休養をと」再三の言にその日は出勤されなかつたが、翌日は定刻出勤些の疲れも見えず平常の通り執務せらる。（旅行談は次號に）

関連事項

① 入学試験科目の修正

昭和二年二月五日付『国民新聞』は次のように報じている。

東京美術學校が試驗に大英斷

鉛筆淡彩畫でよい

數學等も加へて今年から